# 誘いに対する断り談話における代案について

## －日本語母語話者と中国人日本語学習者を中心に－

楊雪（広島大学大学院生）

## 1. はじめに

「誘い」は相手と親しい関係を維持・構築する言語行為の一つであるが，日常生活では相手からの「誘い」を断らなければならない状況もある. Brown & Levinson（1987）によれば，「断り」は相手のフェイスを侵害する行為とされており，人間関係を損なう危険性を伴うものである．このような状況で人間関係を修復するために行われる言語行動の一つとして，「代案」が挙げられている（吉田，2011）．

また，断りのやりとりは一回で実現するとは限らず，断られた後も代案の提示などを通じて談話が展開されることもある．すなわち，断る側のみならず，断られる側の発話も断り談話の展開に影響を与える可能性がある．したがって，誘いに対する「断り」の談話展開の様相を明らかにする際には，断る側だけではなく，談話参加者双方に焦点を当てて分析する必要がある．

一方，日本語学習者の中で，中国人日本語学習者数が国内・海外ともに最も多く，[1]日本語母語話者との間で「誘い」や「断り」談話を行う機会もさらに増加していると予想される．そこで本研究では，日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象に，誘いに対する断り談話において「代案」がどのように用いられるかを明らかにすることを目的とする．

## 2. 先行研究

吉田（2011）は，「代案」を中心に，断る側と誘う側の代案使用について分析を行った．その結果，日本人の断り側は，「代案伺い」や「条件提示」など，誘う側に最終的な決定権を委ねるストラテジーを用いる傾向があり，誘う側は「将来の約束」によって具体的な約束を避けつつ，互いのフェイスを優先する会話例が見られた．一方，インドネシア人の断る側と誘う側は「直接代案提示」を行い，互いに調整しながら具体的な代案を決めて話を進める特徴が見られた. 一方，高（2019）は，断りの終結部において，中国語母語話者が相手の意向を尋ねつつ代案を提示し，その決定を相手に委ねるという消極的な配慮を示すことを指摘している．

以上から，言語によって「断り」の談話における誘う側と断る側のやり取りの仕方が異なることが分かった．したがって，異文化接触場面ではディスコミュニケーションが生じるため，学習者と日本語母語話者の違いを明らかにする必要もある. 本研究では，日本語母語話者と中国人日本語学習者の代案の使用について，断る側の代案使用の特徴，および誘う側は代案を使用する際に，断る側である日本語母語話者と中国人日本語学習者それぞれの反応の特徴を明らかにしたい．

## 3. 分析方法

本研究では，「今週末の食事の誘い」という場面を設定し，日本語母語場面と日中接触場面それぞれ 12 組のロールプレイのデータを分析資料とし，誘いに対する断り談話に見られた「代案」の部分のみに焦点を当て，断る側と誘う側双方の代案使用の特徴を明らかにしたい．調査協力者はすべて広島に在住する 20 代の大学生・大学院生である. そのうち，中国人日本語学習者は日本語能力試験N1 に合格し，日本に滞在歴がある. また，本研究における「代案」の定義及び分類に関しては，吉田（2011）を参考にし，「代案提示」，「代案伺い」，「条件提

[1] 令和 4 年度国内の日本語教育の概要（文化庁）によると，国内の日本語学習者のうち中国人が最も多い（67,027 人・令和 4 年 11 月 1 日発表）．2021 年度海外日本語教育機関調査結果概要（国際交流基金）によると，海外で日本語学習者の多い国・地域の第 1 位は中国である（2022 年 12 月 28 日更新）．

示」,「将来の約束」という 4 つのストラテジーに分けている.

## 4. 分析方法

### 4.1 断る側の代案の使用について

ロールプレイの音声データを分析したところ,「断り」談話における代案の使用に関して,日本語母語話者と中国人日本語学習者の双方で 9 組確認された.断る側から提示された代案の内訳は,以下の表 1 に示す.

表 1 日本語母語話者と中国人日本語学習者の代案の使用について(断る側)

| 代案の形式 | 日本語母語話者 | 中国人日本語学習者 |
|---|---|---|
| 代案提示 | 8 (50.0%) | 4 (22.2%) |
| 代案伺い | 2 (12.5%) | 2 (11.1%) |
| 条件提示 | 5 (31.3%) | 12 (66.7%) |
| 将来の約束 | 1 (6.2%) | 0 (0.0%) |
| 合計(使用回数) | 16 (100%) | 18 (100%) |

表 1 から分かるように,使用回数は日本語母語話者が 16 回,中国人日本語学習者が 18 回あった.日本語母語話者は 4 つのストラテジーを用いており,最も多いのは「代案提示」(8 回,50.0%),その次は「条件提示」(5 回,31.3%)であった.それに対して,中国人日本語学習者では「条件提示」が最も多く(12 回,66.7%),その次は「代案提示」(4 回,22.2%)であった.しかし,中国人日本語学習者では「将来の約束」が見られなかった.

### 4.2 誘う側の代案の使用および断る側の反応について

次に,「断り」談話における代案の使用について見ると,日本語母語話者同士の場面では,誘う側による代案ストラテジーの使用が 8 組見られたのに対し,日中接触場面では 6 組にとどまった.具体的な使用形式と使用頻度については,表 2 に示す.

表 2 日本語母語場面と日中接触場面の代案の使用について(誘う側)

| 代案の形式 | 日本語母語場面 | 日中接触場面 |
|---|---|---|
| 代案提示 | 9 (64.3%) | 5 (50.0%) |
| 代案伺い | 5 (35.7%) | 4 (40.0%) |
| 条件提示 | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |
| 将来の約束 | 0 (0.0%) | 1 (10.0%) |
| 合計(使用回数) | 14 (100%) | 10 (100%) |

表 2 から分かるように,使用回数は日本語母語場面には 14 回,日中接触場面には 10 回があった.しかし,両場面において,誘う側の代案は「代案提示」と「代案伺い」を中心に使用する傾向が見られた.以下では,具体的な会話例を用いて,誘う側の代案に対する断る側である日本語母語話者と中国人日本語学習者の反応の特徴を説明する.

#### 4.2.1 「代案提示」の使用について

まず,断片 1 において,JF12 は相手の誘いに対し,行けない理由を説明しつつ,「日曜日の,ま,午前中とかに,帰ってくるかなぁって感じ.」(発話 06)と情報を提示した.それに対し,JF11 は「じゃあ,日曜日,昼とか.」(発話 07)と「代案提示」を行った.これに応じて,JF12 は「条件提示」を用いて相手の誘いを承諾した.

＜断片１：日本語母語場面（JF11:誘う側，JF12:断る側）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 06 | JF12 | あー（<笑>），土曜，土曜日，土曜日は一緒に遊ぶかな．日曜日，土曜日と<沈黙２秒> 旅行に行こうと思ってて（うんうんうん）．土曜日と日曜日で行くから，でも，日曜日の，ま，午前中とかに，帰ってくるかなぁって感じ． | 「理由説明」 |
| 07 | JF11 | じゃあ，日曜日，昼とか． | 「代案提示」 |
| 08 | JF12 | あ，そう，， | |
| 09 | JF11 | 間に合うかも． | |
| 10 | JF12 | 日曜日の昼，昼過ぎとかなら（あー），間に合うかもしれない． | 「条件提示」 |
| 11 | JF11 | じゃあ，また，連絡して，帰って（あー）くる時間． | |

次に，日中接触場面の会話例を検討する．断片２では，CJL-F06 の断りに対し，JNS-F06 が「カフェで（うん），パソコン持ってて，やりながらご飯食べてさ，喋ろうよ．」（発話 11）という形で「代案提示」を行った．この代案に対し，CJL-F06 は「あ，いいね．」「行こう．」（発話 12，発話 14）と即座に承諾した．このように，誘う側が「代案提示」を行った後，断る側である中国人日本語学習者がその代案をすぐに受け入れる例が見られた．

＜断片２：日中接触場面（JNS-F06:誘う側，CJL-F06:断る側）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | CJL-F06 | 土日はちょっと，難しい． | 「断り」 |
| 17 | JNS-F06 | <笑>土日難しい？え，そうなん，そうなん（はい），なんで． | 「断りの理由説明要求」 |
| 08 | CJL-F06 | えー，ちょっと．えー，課題とか． | 「理由説明」 |
| 09 | JNS-F06 | あー，課題さ． | 「理解」 |
| 10 | CJL-F06 | 締め切りが近いので，ごめん． | 「謝罪」 |
| 11 | JNS-F06 | え，やったらさ，カフェで（うん），パソコン持ってて，やりながらご飯食べてさ，喋ろうよ． | 「代案提示」 |
| 12 | CJL-F06 | あ，いいね． | 「肯定的評価」 |
| 13 | JNS-F06 | ね，行こう？ | 「確認要求」 |
| 14 | CJL-F06 | 行こう． | 「承諾」 |

### 4.2.2 「代案伺い」の使用について

断片３では，相手の断りに対し，JM01 が「土曜の夜は？夜．」（発話 17）と【代案伺い】を行った．これに対し，JM02 は断り理由を詳しく説明した後，「別の週とかやったら（うん）いいんやけど．」と【条件提示】を行った．しかし，JM01 は相手の代案を拒否し，さらに【代案提示】を行った．このように，日本語母語話者は理由説明を用いて相手の代案を拒否し，お互いに調整しながら具体案を決めようするパターンが見られた．

＜断片３：日本語母語場面（JM01:誘う側，JM02:断る側）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | JM02 | いや，行きたいんだけど（うん），僕もちょっとさ，あそこの新しいお店．おいしそうやだから（うん）．うん．行きたいんだけど，あの，金曜日に（うん）その，一緒にご飯を食べて（うん），そのままちょっと，あのー，お泊まり（えー）．そして土曜も一緒に過ごすから． | 「理由説明」 |
| 17 | JM01 | 土曜の夜は？夜． | 「代案伺い」 |
| 18 | JM02 | えっ，夜もね，<笑>なんつーかなー．日曜，朝忙しいってのと（うん），ちょっと，あまりさー（うん），その，あ，相手も忙しいからー（うん），あのー，なかなか２人で過ごす時間がないから，ちょっと，ま，なるべくおりたいんだよな（あー）って気持ちがあるんだ．別の週とかやったら（うん）いいんやけど． | 「理由説明」＋「条件提示」 |
| 19 | JM01 | いや，でも，ちょっと，僕も，今週しか行けなくて，どうしても． | 「断り」 |
| 20 | JM02 | あ，そうなんか． | 「理解」 |
| 21 | JM01 | 良かったら，その（うん），３人で行くとか． | 「代案提示」 |

断片４では，CJL-F05 が週末にバイトで忙しいという理由を挙げ，相手の誘いを断った．それに対し，JNS-F05 は「じゃあ，日にちは改めたほうがいいか．来週にする？」と「代案伺い」を行った．この「代案伺い」に対し，CJL-F05 は「週末は大体同じ感じなんで.」（発話 32）と再度断りを述べた後，「平日だったら…」（発話 34）と行ける条件を提示した．このように，誘う側が「代案伺い」を行った場合，中国人日本語学習者は自ら行ける条件を提示する傾向が見られた．

＜断片４：日中接触場面（JNS-F05:誘う側，CJL-F05:断る側）＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 28 | CJL-F05 | でも，時々（うん）7 時にお客様が入ってて（うん），7 時半に終わらない． | 「断り」 |
| 29 | JNS-F05 | 7 時半には終わらないかもしれない？ | 「確認要求」 |
| 30 | CJL-F05 | そうですね． | 「確認」 |
| 31 | JNS-F05 | なるほど．じゃあ，日にちは改めたほうがいいか．来週にする？ | 「代案伺い」 |
| 32 | CJL-F05 | そうですね．週末は大体同じ感じなんで． | 「断り」 |
| 33 | JNS-F05 | あ，週末は大体一緒？ | 「確認要求」 |
| 34 | CJL-F05 | そうですね．＜平日だったら…＞｛＜｝ | 「条件提示」 |
| 35 | JNS-F05 | ＜平日？＞｛＞｝オッケー，オッケー． | 「受け入れ」 |

## 5. おわりに

本研究では，日本語母語場面および日中接触場面における誘いに対する断り談話に見られる「代案」に焦点を当て，その使用特徴を分析した．特に，誘う側の代案に対する断る側の反応について，両者とも断る側が自ら行ける条件を提示する傾向が共通していることが明らかになった．これは，条件を提示することで承諾の可能性を示し（蔡，2005），最終的な決定権を誘う側に委ねる行為である（吉田，2011）．このことから，誘う側のフェイスを保ちながら，相手への配慮を示していると考えられる．一方，日本語母語話者は理由説明を用いて相手の代案を拒否し，お互いに調整しながら具体案を決めようとするパターンが見られた．このことは，親しい友人関係であるからこそ，問題解決のために積極的に代案を出し合う傾向があることを示している．今後の研究では，より多くの談話例を収集し，さらなる分析を進めていきたい．また，今回のデータには「代案」が使用されていない例も含まれていた．このような会話例では，誘いに対する断り談話がどのように展開されているのかを分析する必要があると考えられる．

## 参考文献


Brown, P& Levinson, S. (1987).

*Politeness: Some universals in language usage.* Cambridge, UK: Cambridge University Press.

蔡胤柱（2005）．日本語母語話者のＥメールにおける「断り」―「待遇コミュニケーション」の観点から― 早稲田大学日本語教育研究，7，95-108.

高揚（2019）．断りの言語行動における配慮表現のフレキシビリティ―日中の若者における比較を通して― 日本語コミュニケーション研究論集，8，44-54.

吉田好美（2011）．勧誘場面における断りのコミュニケーションに見られる代案について―日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較― 群馬大学国際教育・研究センター論集，10，17-32.